

マルコ 6：30－44 成立年代 65 年から 70 年代	マタイ 14：13－21 成立年代 70 年から 80 年代	ルカ 9：10－17 成立年代 70 年から 80 年代	ヨハネ 6：1－15 成立年代 100 頃
6:30 さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。6:31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。 6:32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。6:33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。 6:44 イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、<u>飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ</u>、いろいろと教え始められた。 6:45 そのうち、時もだいぶたったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、時間もだいぶたちました。6:36 人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買に行くでしょう。」 6:37 これに対してイエスは、「<u>あなたがた</u>が彼らに食べ物を与えなさい」とお答えになった。弟子たちは、「わたしたちが二百デナリオンものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と言った。 6:38 イエスは言われた。「パンは幾つあるのか。見て来なさい。」弟子たちは確かめて来て、言った。「五つあります。それに魚が二匹です。」 6:39 そこで、イエスは弟子たちに、皆を組に分けて、青草の上に座らせるようにお命じになった。6:40 人々は、百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした。6:41 イエスは <u>五つのパンと二匹の魚</u>を取り、	14:13 イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。 14:14 イエスは舟から上がり、<u>大勢の群衆を見て深く憐れみ</u>、その中の病人をいやされた。 14:15 夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行くでしょう。」 14:16 イエスは言われた。「行かせることはない。<u>あなたがた</u>が彼らに食べる物を与えなさい。」 14:17 弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」 14:18 イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、 14:19 群衆には草の上に座するようにお命じになった。そして、 <u>五つのパンと二匹の魚</u>を取り、	9:10 使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。 9:11 群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。<u>イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。</u> 9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけてしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」 9:13 しかし、イエスは言われた。「<u>あなたがた</u>が彼らに食べ物を与えなさい。」 彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」 9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。 イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。9:15 弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。9:16 すると、イエスは <u>五つのパンと二匹の魚</u>を取り、	6：1 その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。6：2 大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。 6：3 イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。6：4ユダヤ人の祭りである<u>過越祭</u>が近づいていた。<u>（聖餐式を想起させる）</u> 6：5 イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、6：6こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。6：7 フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。 6：8 弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。6：9「ここに大麦の <u>パン五つと魚二匹</u>とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」6：10 イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちは

天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。 6:42 <u>すべての人が食べて満腹した。</u> 6:43 そして、 <u>パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。</u> パンを食べた人は男が五千人であった。	天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。 14:20 <u>すべての人が食べて満腹した。</u> そして、 <u>残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。</u> 14:21 食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。	天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。 9:17 <u>すべての人が食べて満腹した。</u> そして、 <u>残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。</u> 9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。	そこに座ったが、その数はおおよそ五千人であった。 <u>6：11 さて、イエスはパンを取り、（聖餐式を想起させるようにパンのみ）</u> 感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。 6：12 人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。 6：13 集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。 6：14 そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に來られる預言者である」と言った。 6：15 イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。 6：10 その数はおおよそ五千人であった。
---	---	--	---

夏の聖書講座(2026 年)

4 福音書と「5 千人に食べ物を与える」物語

今年の夏の聖書講座では、4 つの福音書すべてに記されている「5 千人に食べ物を与える」物語を手がかりに、福音書理解を深めていただくことを目的としています。

1. 福音書の成立と特徴

福音書は 紀元 65 年頃から 100 年頃 にかけて書かれました。

●共観福音書(マルコ・マタイ・ルカ)

マルコ福音書を土台として(マルコの内容の約 97%が他の二つに受け継がれる)、マタイとルカが編纂されています。 それぞれに独自資料(マタイ資料・ルカ資料)があり、クリスマスや復活の記事はその代表例です。マルコには記されていない内容が、マタイ・ルカには独自に記されています。

●第四福音書(ヨハネ)

ヨハネ福音書は、イエスの言行を独自の視点で伝えるもので、他の福音書とは大きく異なる特徴を持っています。「5 千人に食べ物を与える」記事も、ヨハネだけが独自の形で伝えています。

2. 新共同訳聖書「聖書について」より

福音書は、イエスがもたらした決定的救いの恵みを伝える書物であり、イエスの生涯の行いと教え、そして死と復活を語る。これは伝記というより、イエスによって生きた人々の証言の記録である。

3. 各福音書の特徴と「5 千人に食べ物を与える」記事の意味

◆マタイによる福音書

マタイは、ユダヤ教から改宗したキリスト者を念頭に編集され、イエスが旧約の約束の成就であることを強調します。五つの大きな説教(5～7 章、10 章、13 章、18 章、24～25 章)が特徴です。

私は、マタイ福音書のキーワードは「インマヌエル(神は我々と共におられる)」だと考えています。

- ・「その名はインマヌエルと呼ばれる」(1:23)
- ・「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(28:20)

最初の系図から最後の言葉まで、マタイは「神が共におられる」ことを証ししています。

◆マルコによる福音書

マルコは異邦人の改宗者を対象とし、福音の言葉によって働き続けるイエスに従うよう招きます。

私はこの福音書が「見捨てられた人々にイエスがどう目を注がれたか」を証ししていると思います。「5 千人に食べ物を与える」記事には、他の福音書にない一言があります。

「イエスは…飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ」(6:44)

イエスの人々を憐れむまなざしの深さが、マルコ独自の強調点です。

◆ルカによる福音書

ルカは、「ルカによる福音書」と「使徒言行録」の著者である。前者はギリシャ文化に親しんでいる読者に向けられおり、小さな者や罪人(つみびと)に近づいてこれに福音を語ることを強調されている。また、エルサレムで十字架にかかり、復活するためにエルサレムに上るイエスの姿を伝えるが(9:51～10:27)、この死と復活の神秘こそ、地の果てまで告げ知らされる聖書の救いの使信の核心である。「使徒言行録」は、イエスがもたらした救いの告知がペテロ、パウロなどによってエルサレムに始まり、サマリア、シリア、ギリシャから、ローマまで広がる経過を描いている。

ルカは「ルカ福音書」と「使徒言行録」の著者であり、ギリシャ文化に親しむ読者を想定しています。小さな者・罪人に近づき、福音を語るイエスの姿を強調します。

ルカ独自の記事として、「イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。」という言葉があります。

医者であったルカは、弱者に目を注がれるイエスの姿を深く心に刻んでいたのでしょう。（羊飼いの降誕告知、ザアカイ、放蕩息子、善きサマリア人など弱者へのまなざしが随所に現れる）

マリア讃歌(1:46-56)は、弱き者に目を留められる神を讃える最高の詩です。

◆共観福音書に共通すること

「5千人に食べ物を与える」記事から見えるのは、**食事を与えるのは「あなたがた」であるという主の命令** つまり、宣教の担い手は弟子たちであるという点です。

◆ヨハネによる福音書

ヨハネによる福音書は、読者がイエスを神の独り子と信じて永遠の命を得るように記された、イエスの言行のうちに特に意味深いものを伝えようとしている。

ヨハネが伝えようとした中心は「神の愛」です。

「神は、独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(3:16) 第1ヨハネの手紙でも「神は愛です。」(一 4:16) と繰り返し語られます。

※注記

- 太字部分は「新共同訳聖書 付録『聖書について』」(日本聖書協会)からの引用
- 四角で囲まれている部分は牧師としての解釈
- 引用聖書は、「新共同聖書」日本聖書協会